

## 生誕100周年・没後30周年記念 中原淳一の生きた戦中・戦後 ～少女像にこめた夢と憧れ～

### 開催趣旨

このたび昭和館では、「生誕100周年・没後30周年記念 中原淳一の生きた戦中・戦後～少女像にこめた夢と憧れ～」と題して、特別企画展を開催することとなりました。

中原淳一は大正2年(1913)に生まれ、昭和58年(1983)に没した、昭和を代表する画家でありファッションデザイナーです。雑誌『少女の友』の表紙絵や附録などを手がけ、一躍、人気画家になりました。また、戦中は慰問絵はがきを多く制作し、戦地に赴いた兵士たちの心を慰めましたが、その西洋的な画風が軍部からにらまれ、『少女の友』に作品が掲載することができなくなりました。

しかし、戦争が終わるとすぐに創作活動を再開、21年8月に『ソレイユ』(後に『それいゆ』)を自ら創刊し、物資が不足している中でも豊かに生活する方法を提唱し、世の女性たちに夢と希望を与えて復興への原動力となりました。

本展は、生誕100周年と没後30周年を記念し、これまであまり紹介されることがなかった特に戦中・戦後の活動にスポットをあて、彼の業績を紹介します。また、戦地への慰問品や、スタイル画から再現した洋服と当時の服装を併せて展示するなど、戦中・戦後の世相をテーマを設けて展示します。

### 記

【主催】	昭和館
【会期】	平成25年3月16日(土)～5月12日(日)
【企画協力・監修】	株式会社ひまわりや
【会場】	昭和館3階 特別企画展会場
【入場料】	特別企画展は無料(常設展示室は有料)
【開館時間】	10:00～17:30(入館は17:00まで)
【休館日】	毎週月曜日(祝日の場合はその翌日が休館。4月29日、5月6日は開館)
【内覧会】	平成25年3月15日(金) 15:00～17:00
【所在地】	〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1
【問い合わせ】	T E L 03-3222-2577 F A X 03-3222-2575
【交通(電車)】	地下鉄【九段下駅】から徒歩1分(東西線・半蔵門線・都営新宿線4番出口)
	J R 【飯田橋駅】から徒歩約10分
【交通(車)】	首都高速西神田ランプから約1分
【ホーム・ページ】	<a href="http://www.showakan.go.jp">http://www.showakan.go.jp</a>
【その他】	有料駐車場有り(普通乗用車のみ・30分200円)

展示構成

I プロローグ

1. 生い立ち
2. 人形作家としてデビュー
3. 『少女の友』挿し絵画家として

	
<p><b>ポスター「PK 人形クラブ第3回展」</b> 昭和6年(1931)に結成された、創作人形作家グループ「PK 人形クラブ」作品展のポスター。淳一も早い段階から同グループに名を連ねていた。翌年(19歳)には、初めて個展を開催し、人形作家として絶大な人気を博した。</p>	<p><b>『少女の友』8月号</b> 淳一が描いた表紙。淳一は昭和7年(1932)から『少女の友』と専属契約を結び、挿絵や附録の企画・デザインを担当した。10年1月号からは表紙も担当するようになった。 昭和13年(1938)8月</p>
	
<p><b>啄木かるた</b> 『少女の友』昭和14年(1939)1月号の附録。淳一が企画した附録は、彼の挿し絵とともに爆発的な人気を呼び、『少女の友』の売れ行きも倍増した。</p>	<p><b>「花物語 上巻」(扉絵原画)</b> 吉屋信子作の少女小説『花物語』単行本の扉絵の原画。大正時代に断続的に連載されたものを、『少女の友』に昭和12年(1937)から2年間にわたり再録。淳一が挿し絵を担当した。 昭和14年(1939) 株式会社ひまわりや蔵</p>

II 迫り来る戦火

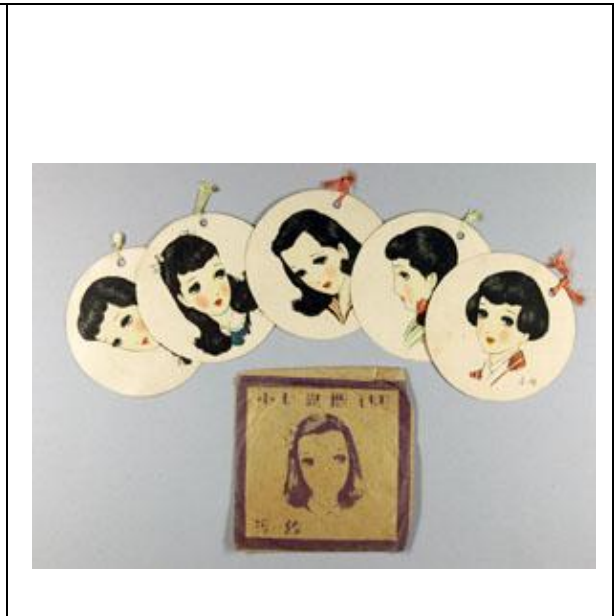
1. 「ヒマワリ」開店
2. 『少女の友』への掲載中止
3. 海軍への召集

	
<p><b>『きものノ絵本』</b>          淳一初の単行本として、昭和 15 年(1940)から発刊されたスタイルブック。14 年に麹町に開店した服飾雑貨と洋裁の店「ヒマワリ」から通信販売により販売された。淳一の復員後、21 年にも内容をかえ再度発行された。          昭和 16 年(1941)</p>	<p><b>はがき</b>          女子挺身隊として勤務していた女性が友人から受け取ったはがき。淳一の慰問絵はがきを使用している。          昭和 19 年(1944)8 月</p>
	
<p><b>『少女の友』6月号(左)『少女の友』7月号(表紙・宮本三郎画)(右)</b>          淳一の描く西洋風の夢見る瞳の少女像が、世相にそぐわないと軍部から圧力がかった。淳一には軍の意向に沿って画風を変える意志はなかった。しかし、何人もの友人が戦争で命を奪われるという状況の中で、甘く優しい少女の夢を育てるような仕事をしていて良いのかという気持ちが高まり、6 年間続けてきた『少女の友』表紙絵作画画について別れを告げることとなった。          昭和 15 年(1940)6 月、7 月</p>	



テーマ展示 戦地への慰問品

戦地の兵士慰問のために、日用品や食料品、手紙などを入れた慰問袋が作られた。その中には、故郷とやりとりするためのはがきも入れられた。淳一の絵がデザインされた絵はがきは慰問品として市販されていた。



「千人針」(慰問絵はがき)  
淳一がデザインした絵はがき。

少女慰問しをり  
戦地慰問品として販売されていた、淳一が描いた少女の顔のしおり。



「フランス人形羽子板と皇軍慰問のマスコット人形の作り方」  
淳一による、手芸作品の解説記事。慰問袋に入れるマスコット人形を取りあげている。  
『主婦之友』1月号に掲載。  
昭和13年(1938)1月

(参考出品)  
慰問人形  
戦地慰問品として送られた、少女をかたどった手製の人形。

テーマ展示 戦中・戦後の服装

淳一は婦人服、子供服のデザイン画を多く発表している。淳一がデザインした洋服を実際に復元し、それと当時着用されていた洋服を比較して、そのデザイン性を見る。

	
<p><b>防空服</b> 『ヒマワリ型紙 防空・防寒・作業服』より</p>	<p><b>防空服(復元)</b> 『ヒマワリ型紙 防空・防寒・作業服』に紹介されている防空服を復元した。 協力: 後藤スミ子</p>
	
<p><b>ワンピース</b> 『ヒマワリ型紙 ヒマワリの型紙』昭和 21 年(1946)より</p>	<p><b>ワンピース(復元)</b> 『ヒマワリ型紙 ヒマワリの型紙』で紹介されているワンピースを復元した。 協力: 久保桜</p>

### Ⅲ 新たな構想

1. ヒマワリ社の再出発
2. 物資不足下の工夫と心づかい
3. 『ソレイユ』と『ひまわり』創刊
4. 様々な活動



#### 箱(ひまわりブラウス)

「ヒマワリ社」で販売されたブラウスの箱。  
 麹町区(現・千代田区)麹町にあった「ヒマワリ」は戦災にあつたため、昭和 21 年(1946)に神田神保町に店を構えた。店頭と通信販売で、スタイルブック、服飾品、文具など淳一オリジナルグッズを扱っていた。

#### 『ソレイユ』3

昭和 20 年(1945)8 月に復員した淳一は、自分の手で雑誌を創刊しようと考え準備を進め、翌 21 年 8 月に『ソレイユ』の刊行に踏み切った。創刊号はたちまち売り切れ、2 号以降を製作するために「ヒマワリ社」を設立した。  
 昭和 22 年(1947)3 月



#### 原画(四ツ葉のクローバー)

『ひまわり』昭和 25 年(1950)2 月号中のカット。  
 株式会社ひまわりや 蔵

#### ポスター「レートジュニアクリーム」

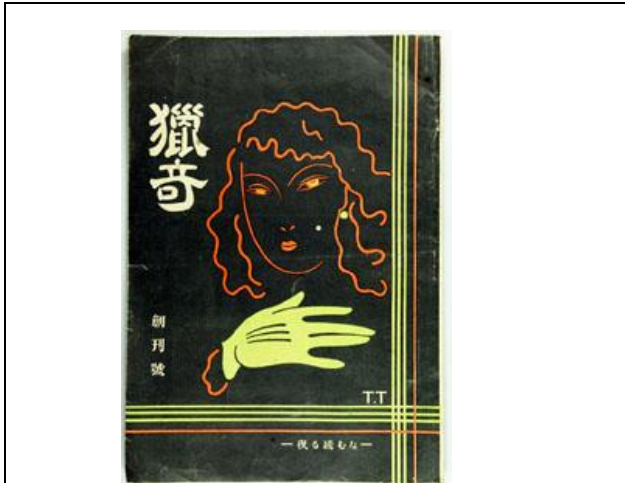
子ども用化粧品のポスター。このクリームのパッケージデザインも淳一が手がけた。

昭和 28 年(1953)頃



**テーマ展示 戦後の雑誌創刊ブーム**

戦後出版の自由が回復すると、多くの雑誌が創刊された。淳一も昭和21年(1946)8月に『ソレイユ』をいち早く創刊し、女性達に夢と希望を与えた。そのブームの中では、それまで見られなかった、暴露や過激な風俗を扱った「カストリ雑誌」と呼ばれた雑誌も登場した。



(参考出品)  
『獵奇』創刊号

昭和21年(1946)10月

**テーマ展示 人気のあまりの「ニセジュン」**

淳一が描く少女が女性達に人気があったため、淳一に似せたイラストを使用した、さまざまなものが出回った。女性達はそれらを「ニセジュン」と呼んだ。



(参考出品)  
羽子板  
淳一の作風を似せた少女像が描かれている。

#### Ⅳ エピローグ

1. 館山での療養生活
2. 『女の部屋』

	
<p>『ジュニアそれいゆ』No.10 昭和 26 年(1951)パリへ旅立った淳一は、3 年の滞在予定を前倒して帰国した。そして『ひまわり』に替わり、パリ滞在中に構想していた新しい少女雑誌『ジュニアそれいゆ』を創刊した。 昭和 31 年(1956)7 月</p>	<p>中原淳一 昭和 45 年(1970)頃 株式会社ひまわりや提供</p>

©JUNICHI NAKAHARA / ひまわりや

#### イベント

##### (1)ミニ講演会

中原芙蓉氏(淳一長女)にお話しをしていただく。

期日:4月13日(土) 14:00~15:00

場所:昭和館1階ニュースシアター

##### (2)花見イベント

紙芝居、大道芸、遊び等を中心としたイベントを行う。

期日:4月6日(土)・7日(日) 11:00~15:30

場所:昭和館2階ひろば

##### (3)展示解説

担当者による、展示解説を行う。

期日:3月30日・4月20日(土) 14:00~ (約45分)

場所:昭和館3階特別企画展会場

#### 【問い合わせ先】

昭和館学芸部 03-3222-2577

担当:渡邊・財満(ざいま)

**※中原淳一の画像を使用するには著作権が発生します。使用希望の場合は必ず担当者へご連絡下さい。また、掲載することが決定しましたら、ご一報下さい。**